

第2回みやぎ観光振興会議 気仙沼・本吉圏域会議

開催結果概要

(1) 圏域の観光の現状

- 観光客入込数は、ようやく震災前の水準を上回ったものの、宿泊観光客数は今なお震災前の水準に届いていない。
- 魅力ある観光資源が多数存在しているにもかかわらず、それを外部に伝える情報発信力が弱い。
- 密になりやすい屋内の観光が避けられ、アウトドアの観光が好まれるなど、コロナ拡大により観光ニーズが変化してきている。
- 教育旅行について、首都圏から感染者数が少ない地域へと行先が移行しており、当圏域も候補地として引き合いが多くなっている。また、密を避けるため、大型バスでの一斉移動や大規模宿泊施設での一括宿泊が見直されるなどしている。
- 首都圏など感染症が拡大している地域との往来にはまだまだ躊躇がみられる。
- 三陸道沿岸道路延伸、気仙沼がNHK連続テレビ小説の舞台として決定するなどポジティブな動きがある。
- 仙台空港や仙台駅からの交通アクセスが良くない。

(2) 圏域の観光の課題

- 圏域内における滞留性・周遊性を高めることが必要。
- 圏域の観光コンテンツ・食・宿泊・ショッピング施設を一体的に楽しめるような取組が少ない。
- 来訪の動機付けとなるような当圏域の観光資源の魅力をより効果的に伝える情報発信が必要。
- 変化した観光に対するニーズを的確に捉え、振興施策を講ずることが必要。
- 観光客を受け入れる側に感染リスクに対する不安感がある。当面、県内在住者の県内における観光需要を喚起していくことが必要。
- 三陸沿岸道路延伸で観光客の増加が見込めることから、仙台⇄岩手・八戸間の単なる通過点とならないよう、三陸沿岸道路を活用する観光客に当圏域に立ち寄ってもらう手立てを講じる必要がある。
- 圏域へのアクセスを改善することが必要。

(3) 回復戦略や成長戦略などの方向性・具体的な取組等

- 登米市、栗原市、岩手県南部地域を含めた広域的な観光パッケージの造成など、より多様な観光コンテンツの提供
- 当圏域の観光資源の魅力や宿泊施設・観光関連施設等における安全安心の取組についての効果的な情報発信。その際に、圏域の魅力を再度しっかりと認識した上で、YouTubeやNetflixなどデジタル媒体のほか、マップや看板など従来からの媒体も含め幅広く実施する。
- 自然豊かな当圏域の特性を活かした新しい観光モデルの構築
- 教育旅行のニーズの変化に的確に対応したプランを造成し、地域内の事業者が連携して取り組む。
- ワークーションの需要調査を実施する。
- 事業者が安心して観光客を受け入れられるよう、感染症拡大の状況に応じた対応方針などを県がガイドラインとして明確に提示する。
- 県北地域と県南地域を相互に交流した場合の割引宿泊券の発行など、県内在住者向けの新たな観光誘引策
- 各インターチェンジ設置地域の知られざる魅力を掲載したドライブマップの作成やスタンプラリー事業など、三陸沿岸道路とからめた観光プランの造成
- 交通手段間連携によるダイヤ乗り継ぎ改善や接続交通運行に対する助成

(4) 委員からの主な意見

- 教育旅行について、首都圏から感染者数が少ない地域へと行先が移行しており、当圏域も候補地として引き合いが多くなっている。また、密を避けるため、大型バスでの一斉移動や大規模宿泊施設での一括宿泊が見直されるなどしている。
- 圏域の観光コンテンツ・食・宿泊・ショッピング施設を一体的に楽しめるような取組が少ない。
- 観光客を受け入れる側に感染リスクに対する不安感がある。当面、県内在住者の県内における観光需要を喚起していくことが必要。
- 当圏域の観光資源の魅力や宿泊施設・観光関連施設等における安全安心の取組についての効果的な情報発信。その際に、圏域の魅力を再度しっかりと認識した上で、YouTubeやNetflixなどデジタル媒体のほか、マップや看板など従来からの媒体も含め幅広く実施する。
- 教育旅行のニーズの変化に的確に対応したプランを造成し、地域内の事業者が連携して取り組む。
- ワークーションの需要調査を実施する。
- 事業者が安心して観光客を受け入れられるよう、感染症拡大の状況に応じた対応方針などを県がガイドラインとして明確に提示する。
- 「基本理念」が抽象的なので、もっと具体的に示すべき。
- 「みやぎにしかないアドバンテージ」をもっとたくさん示すべき。
- 回復の状況が具体的にイメージできるよう、観光客数や経済的指標などを対比させて段階的に示してほしい。
- 感染症拡大防止と観光振興はどちらも重要なので、バランスよく取り組めるよう配慮してほしい。
- SWOT分析により「強み」「弱み」「機会」「脅威」を可視化すれば、戦略は自ずと見えてくるのではないかと。

